

令和5年度（2023年度）第2回部活動関係者会議議事録

- 1 日時：令和6年2月9日（金） 9時30分～10時40分
- 2 場所：Zoomによる遠隔会議（かでの2・7 310会議室から配信）
- 3 説明：部活動改革推進課 高橋課長補佐から資料に沿って説明
 - (1) 「北海道の部活動の在り方に関する方針」及び「道立学校に係る方針」の一部改正について
 - (2) 部活動の地域移行の取組状況について

4 意見交換内容

○構成員 ●事務局

(1) 「北海道の部活動の在り方に関する方針」及び「道立学校に係る方針」の一部改正について	
○都市教委連（永田教育長）	「暑さ指数が31以上」の場合は、原則として活動を行わないとあるが、この「原則」に当てはまらないのはどういった場合か。
○高等学校長協会（藤井校長）	どのような場合に「原則」に当てはまらないか、学校現場でしっかりと理解することが必要であるので、わかりやすく示していただきたい。
●事務局（高橋課長補佐）	<p>「原則」については、関係課と協議し、後日改めて回答いたします。</p> <p>【事務局追記】以下のとおり、回答いたします。</p> <p>「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」（令和3年5月環境省・文部科学省）（以下「国の手引き」という。）では、「暑さ指数（WBGT）に応じた注意事項等（環境省）」が示されており、暑さ指数（WBGT）31℃以上は「外出をなるべく避け」、「運動は原則中止」とされています。</p> <p>暑さ指数（WBGT）が31℃以上は、外出して活動することに危険性があり、一般的な暑さ対策を講じても適切な活動環境を保障することが困難な状況と考えられることから、特別な対策（※）が取られているときを除き、活動を行うことは適切ではないと考えます。</p> <p>なお、競技の特性や生徒の実態、当該地域における平均的な暑さ指数（WBGT）との差等を踏まえ、活動を行わないこととする暑さ指数（WBGT）の基準を31℃よりも低くすることも考えられます。</p> <p>（※）特別な対策について</p> <p>「国の手引き」では、暑さ指数（WBGT）28℃以上の時点で「10～20分おきに休憩をとり、水分・塩分の補給を行う。」といった対応が示されており、31℃以上の場合に28℃以上の場合と同様の対応を講じたとしても十分とは言えないと考えられ、そもそも適切な活動環境を保障することが困難な状況と考えられることを踏まえると、極めて限定的に取り扱うべきものと考えます。</p>
○道特P連（篠塚理事）	<p>昨年、伊達市の小学生が熱中症で亡くなるという事故があった。学校で教員1人では多様な児童生徒の実態に合わせ指導を行うことは大変なことだと思う。発達障がいや場面緘黙等の生徒の場合には、障がい特性から体調不良を訴えること自体が難しく、熱中症のリスクも高い。そういった一群の子ども達が存在することも知ってほしい。</p> <p>最近の猛暑の状況は以前とは大きく異なっており、暑さ指数に基づき、活動を実施するかどうかの判断を行うということは理解できる。</p>
●事務局（高橋課長補佐）	特別支援学校での熱中症対策については関係課に御意見としてお伝えしたい。
(2) 部活動の地域移行の取組状況について	
○高P連（村井会長）	「地域説明会」とあるが対象者は、地域住民でしょうか。説明会の内容も教えてほしい。
●事務局（高橋課長補佐）	説明会の対象者は、保護者、地域住民等、様々な方を対象とした説明会となっている。

	<p>道教委では市町村教委等からの依頼を受け、こうした地域説明会にアドバイザーを派遣し、部活動の地域移行の意義等について説明している。</p>
○座長（志手教授）	<p>北海道教育大学岩見沢校のキャンパス長も道のアドバイザーとして各地域に赴いて説明をしている。</p>
○高P連（村井会長）	<p>札幌市を除く道内178市町村のデータを見せていただいたが、札幌市のような大都市についてはどうなっているのか。</p> <p>比較的小規模で、部活動数が少ない市町村で取組が進んでいるようにも見えるが、比較的取組が順調に進んでいる市町村の傾向等あれば教えてほしい。例えば大都市で、指導者の人材はいるが、学校数が多く、部活動の種目数も多いところと、地方で、部活動が1種目しかないところの違いなどについてもう少し教えてほしい。</p>
●事務局（高橋課長補佐）	<p>札幌市については政令指定都市であり、道教委として、札幌市の進捗状況等についてお答えするものを持っていないためご了承いただきたい。</p> <p>取組が順調に進んでいる自治体の傾向については、もともと地域に総合型地域スポーツクラブがあり、これを活用し、取組を進めているところや、以前から国の事業等を活用して、早い段階から検討を進めてきたところが取組を順調に進めている。また都市部で指導者を確保できる場所も順調に進めている。</p> <p>なかなかうまく進まないという自治体ではやはり「指導者の確保」が困難であったり、「受け皿団体」が整っていなかったり、「財源の確保」といったところが課題となっている。</p>
○高P連（村井会長）	<p>校長会の方とお会いした際に「教職員の働き方改革が課題となっており、保護者の理解、協力をお願いしたい」という話があった。PTAとしても情報をいただきながら、連合会の各支部のPTA会長とも話をしていきたい。</p>
●事務局（高橋課長補佐）	<p>PTAの御協力をいただくと大変心強い。PTAの会議等で、部活動の地域移行について説明する機会等あれば、御連絡いただきたい。</p>
○道P連（若林副会長）	<p>やはり「指導者の確保」が課題。苫小牧はアイスホッケーが盛んだが、リンクに生徒が集まり、保護者等も含めた指導者がリンクに来て活動するという地域移行に近い形になっている。その中で、指導者は仕事を終えて活動場所に来るので、勤め先の企業の理解がないと早い時間帯に指導に当たることが難しい。「企業の理解」という観点が重要と考える。</p> <p>また、細かな話になるが、地域移行する際に、学校単位で地域クラブに移行するのか、ある種目で複数の地域クラブがあって、どのクラブに入るのか自由に選べるようにするのか、といったところでも取組方が変わってくるので、ある程度規模の大きな市町の間で情報交換を行うなど、PTAの間でもできるようにしていきたい。</p>
●事務局（高橋課長補佐）	<p>「指導者の確保」については、地域の企業にお勤めの方の協力を得ていくことも必要と思う。企業と連携し、御協力をいただけるような取組を現在検討しているところで、今のお話にもあったように、指導者としてお勤めの方の協力を得るほか、地域のスポーツ・文化芸術環境の整備に向けて、例えば、寄付等での資金提供、企業の持つリソースを活用した物的支援などの支援を今後いただけるような取組を進め、「財源の確保」という課題解決につながるようなモデルを作りたいと思っている。具体的な取組を進める際にはまた情報提供させていただきたい。</p> <p>「学校単位」か自由に「クラブ」を選ぶのかということについては、それぞれの地域の実情に応じて「学校単位」での地域連携から進めるのか、安平町のように「地域クラブ」で取り組むのか、目指すことは「地域クラブ」で、子ども達だけではなく、高齢者等も含めた地域住民の誰もがスポーツ・文化芸術に親しむことができる環境を作っていただいて、その中で、これまで部活動で行ってきた中学生のスポーツ・文化芸術活動も行っていくという姿と思っている。そういった取組を進める先進地域の情報についても今後御提供していきたい。</p> <p>また、取組を進める道内自治体の中には「安平町」や「伊達市」など道内のほか、「長崎県長与町」や「沖縄県うるま市」のような道外の先進地域を視察し取組の参考としている</p>

	<p>自治体もあると承知している。</p>
<p>○道特P連（篠塚理事）</p>	<p>過去の会議資料等を読み返してみたところ、コミュニティ・スクールの活用というキーワードが出ていた。道教委ではコミュニティ・スクールの導入の促進を図っていたと記憶しているが、別の会議で、札幌市の担当者から、札幌市教委でも令和6年度からコミュニティ・スクールを導入していく旨、発言があった。コミュニティ・スクールを活用した取組というのものもあるのではないかと。地域の中には指導する人材が眠っている可能性がある。人材の掘り起こしに有効かもしれない。</p> <p>札幌市内では、障がい児の放課後等児童デイサービスが増え続けているように、今後市内の部活動の地域移行が進めば、民間のスポーツクラブが参入する数が増えるのではないかと推察する。</p> <p>地域移行の取組については、国や札幌市のホームページにも事例や参考資料が掲載されているので、御覧いただければと思う。</p> <p>また特別支援学校の部活動の地域移行については、中学校や高校の取組がまずあって、それを参考にしながらも、障がい種別に応じて、検討していくことが必要と感じる。本格的に推進していく可能性が出てきたときは、検討会議等の構成員として各障がい種別学校の保護者PTA、特別支援学校長、障がい者スポーツに詳しい有識者を入れてほしい。</p>
<p>●事務局（高橋課長補佐）</p>	<p>札幌市のコミュニティ・スクールの活用については状況を把握していないので、札幌市とも確認しながら、必要に応じて関係者会議等で情報提供できればと思う。</p> <p>地域移行の事例についてはスポーツ庁・文化庁でも実践事例をホームページに掲載しているほか、道教委のホームページでも道内の取組も含めて紹介しております。</p> <p>特別支援学校の部活動の地域移行については、他府県の事例や、この後、事例発表いただく中札内村では高等支援学校との連携を検討しているというお話をいただく予定となっています。こうした事例を参考にしながら特別支援学校の子どもの地域におけるスポーツ・文化芸術環境について各市町村において整備していただけるよう取り組みたいと思っています。</p>
<p>○座長（志手教授）</p>	<p>地域クラブ活動が中体連大会に参加する際の要件等はどのようになっているのか、中体連から情報提供いただきたい。</p>
<p>○中体連（吉本校長）</p>	<p>今年度から地域クラブ活動の中体連大会への参加が認められ、142の地域クラブ活動が大会に参加している。全国的に見て、多くのクラブが参加している。着実に地域移行が進んでいるように感じる。</p> <p>地域クラブ活動が中体連大会に参加する際の要件については、大きく分けて2つある。1つは、日本中体連が作成している「地域クラブ活動の参加特例における競技部細則」とこれを受けて北海道中体連も「細則」整備している。これらの細則の条件を満たしているというのが大前提となる。もう1つは、全道大会の開催基準の中で、「細則」を網羅した上で、地域クラブ活動の参加を認める条件を定めている。例えば、「北海道中体連の目的を尊重したクラブ運営」などを条件としている。勝利至上主義の考えで選抜チームを作り参加するというクラブも散見されるが、こうしたチームの参加は認めない方針です。もう一つは、国のガイドラインを遵守したクラブの参加を認めることとしています。国のガイドラインの休養日や活動時間を遵守していないクラブについては、中体連の目的・趣旨にそぐわないため、大会には参加できないこととしています。</p> <p>今年度の大会運営を振り返ると、地域クラブのチームの中には、指導者による審判への暴言等、中体連の目的・趣旨にそぐわないものもあり、次年度に向け、競技細則を改訂し、「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」を対象とする方向です。各自自治体と連携し、子ども達が伸びやかに大会に参加できるような環境を整えたいと考え、取組を進めているところです。</p> <p>なお、各自自治体に向けて、これらのことについて中体連から依頼の文書を発出する予定です。</p>
<p>○都市教委連（永田教育長）</p>	<p>中体連の考え方、大変参考になりました。これまでの学校部活動に代わる地域のクラブ活動についての考え方と中体連の考え方とを一致した考え方としてもらえるとうれしい。</p>

<p>○中学校長会（森田校長）</p> <p>○中体連（吉本校長）</p>	<p>地域クラブの運営に係る資金について行政が関与していくことが考えられるが、北斗市ではこれまで学校部活動が全道、全国大会に出場する際に補助を行っているのだが、地域クラブ活動への補助について検討する際に、例えば、勝利至上主義による選抜チームには補助を行わないというようなことも考えられる。</p> <p>地域への説明会という話があったが、活動が地域に移行した後も学校が関与していくのか、トラブルがあった際の責任の所在は運営団体にあるのか指導者にあるのか、教員が希望して地域クラブの指導者となるケースもあるが、異動した場合に指導者がいなくなってしまう可能性があり、その場合に子どもたちの活動機会を損なってしまうということが起こりえるのではないかとといった様々な疑問があり、なかなか地域への説明会ができない状況にある。今後、こういった細かい部分を教えていただけるとありがたい。</p> <p>学校がこれまで担ってきた部活動は自発的な参画をとおして、楽しさや喜びを感じることに本質を持つ文化であり、自己実現を図り、たくましく生き抜く力を育む上でも意義深い活動であると考えており、こうした部活動の文化を地域移行後の活動でも大切にしていきたいと考えている。</p> <p>事務局から説明があったとおり、各自治体での検討が進み、どのような理念で進めていくのかという点は理解が広がっているように感じるが、小中学校の児童生徒・保護者は、今後、中学校の部活動はどうなっていくのか、段階的に休日から移行していくという改革推進期間の3年の中でどうなるのか心配しているところもある。</p> <p>各自治体は、明確になってきた地域移行の課題の解決に向けて、地域連携から進めるのか、自治体が関わって地域クラブを立ち上げるのか、一歩ずつ進めていく時期に入ってきていると感じる。</p> <p>こうした状況の中で、全道の状況を共有できるこうした会議があるのは大変ありがたい。</p> <p>さきほど北斗市の永田教育長からお言葉をいただき心強い。大会の運営資金等の捻出に苦慮しているということがある。後押しいただいたように感じています。</p> <p>中体連として、大会参加を認める「地域クラブ活動」の定義について、たたき台を作り、各市町村教育委員会に文書を発出する予定です。各市町村教育委員会との共通理解に立って大会運営に当たりたいと考えています。</p>
<p>まとめ</p>	
<p>●事務局（高橋課長補佐）</p> <p>○座長（志手教授）</p>	<p>貴重な御意見、御要望をいただきありがとうございました。いただいた御発言につきましては、部活動の地域移行に際する様々な取組の参考とさせていただきたい。</p> <p>熱中症については発生してしまった場合の処置等や予防策を周知することも大切であり、それとともに部活動方針をしっかりと作りこんでいただきたい。</p> <p>部活動の地域移行に関しては、できている部分、課題のある部分がはっきりとしてきているので、うまく地域に移行できる形を作り上げていただきたい。</p>